



平成 30 年度から富山短期大学地域課題解決型 人材育成プログラムがスタート

富山短期大学

富山短期大学では、食物栄養学科、幼児教育学科、経営情報学科、福祉学科及び専攻科に在籍する学生に対して、地域課題解決に取り組めるよう、以下の3科目群41科目による人材育成プログラムを平成30年度より編成している。

「地域志向科目群」(4科目)は、富山の歴史・経済・自然に係る教養科目である。なかでも「現代社会と人間」は、全学科に開設し、本学の特徴を活かし、現代社会における地域課題と密接につながる「食と健康」「保育と育児」「情報と経営」「福祉と介護」の各分野において活躍する著名な講師を招聘して、地域を理解し、自らが地域を考えられる幅広い視野と人間性を養うことを目的としている。

次に「地域課題解決科目群」(16科目)は、学科の専門分野に応じた企業や地域でのフィールドワーク、地方公共団体や企業等からの課題に取り組む等、地域に密着し課題を解決する力を養う内容の専門科目である。

さらに「地域関連科目群」(21科目)は、富山県の歴史・生活・

風土・環境その他の地域の特性を基に展開する授業内容を持つ専門科目である。これらの授業科目から4科目以上、8単位以上修得すると修了証が授与されることになっている。

開学以来55年の歴史と実績をもつ本学は、さらなる飛躍をめざして、未来の地域リーダーとして活躍し、校章にある「知性」「教養」「個性」を兼ね備えた人材育成に全力で取り組んでいる。



「地域課題解決科目群」福祉学科 総合的研究

富山高等専門学校における 学生の地域定着への取組について

平成30年1月18日～19日
富山高等専門学校

富山高等専門学校では、学生の地域定着のため、富山高等専門学校を支援する地域企業の団体である「富山高等専門学校技術振興会」会員企業と共に、さまざまな取組を行っている。

その一環として、平成30年1月18日～19日に、「とやまKOSEN研究推進フォーラム」を開催した。このフォーラムでは、最先端の研究を行っている国内外の研究機関から講師を招聘し、教員、学生及び技術振興会会員企業が一堂に会して、研究発表等を行った。ポスターセッションでは、学生と技術振興会会員企業の技術者が、日頃の研究成果を発表し合い、また、オールセッションでは、学生に対して企業が保有する最新技術を紹介する等、学生と企業が相互に理解を深めた。このような取組を通じて、学生の地域定着率アップを図っている。



オールセッションの様子

産学連携推進センターと地域連携戦略室は、北陸銀行の協力を得て大学生が企業人と対話する「Monthly Work Café(マンスリー・ワーク・カフェ)」をスタートした。初回のテーマは「社会人 1 年生いろんなことがありました」。学生は五福キャンパス大学食堂 2 階に集まり、北陸銀行、コーセル、OSCAR JJ、廣貫堂、KEC の若手社員を囲んで、就職活動や業務内容について自由に質問、交流を深めた。

Monthly Work Café は、学生が企業や、そこで勤務する社会人について理解を深め、地域社会の一員となって働くことを具体的にイメージしてもらい、地域定着につなげることがねらい。学生は 2、3 社の社員のテーブルを巡って、ケーキとコーヒーを味わいながら、親しみやすい雰囲気の中でトークを展開した。

OSCAR JJ の女性社員は富山大学の OG。入社 6 年目で、営業や広告・販売促進などの業務を担当してきた。来春から県外企業に就職が決まっている大学院理工学研究部 2 年の男子学生とのトークでは、仕事内容や、どんなことに興味を抱いているか、どんな仕事がしたいか、仕事以外の場での息抜きの仕方などについて話した。女性社員は「休みの日や仕事の後はテニスに打ち込んでいます。社外にも友人ができることなどがメリット」などと助言した。北陸銀行の女性行員(富山大学の OG、3 年次から富山大学に編入、現在は支店勤務)は、人間発達科学部の女子学生や大学院経済学研究部 2 年の女子学生

に、1 日の仕事の流れや、年間のスケジュールなどを紹介した後、就職活動の経験について「新聞を毎日読むようにし、『1 日インターンシップ』に参加して職場の雰囲気をつかみ、平行して自己分析を進めた」と語り、いろんな業種を見た後、金融業界に絞っていったことを紹介。また、近年、職場では「働き方改革」により、残業を最低限にとどめ、効率よい業務遂行に努めていることなども紹介した。

コーセルの男性社員(富山大学 OB、入社 4 年目、現在は開発部門勤務)は、就職活動について「まだ何をしたいか見つからない」と話す経済学部的女子学生に、「あんまり考えすぎるのも良くない。上手に息抜きをすることも大事」などとアドバイスした。

【今後の実施予定】

- 第 2 回 7 月 25 日(水)
「社会人が振り返る。大学生活でやっておけばよかったこと」
- 第 3 回 10 月 31 日(水)
「地元をはなれて実際どうだった(富山の生活、遊び、仕事)」
- 第 4 回 11 月 28 日(水)
「社会や地域にも貢献したい! 社会人になってもできる?」
- 第 5 回 12 月 19 日(水)
「社会人になってみてわかる、就活のポイント」
- 第 6 回 1 月 30 日(水)
「仕事の中身、仕事の面白さ」



スタートに際し、挨拶する尾山コーディネーター



フリートークをする県内企業の若手社員と学生

COC+
Center of Community Plus

富山大学
Monthly Work Café
社会人ササトのとき

参加無料!

しかも
お祝いギフト券の
洋菓子付き!

ホンネで話そう、ホンキで語ろう。

社会人になるのが不安なあなた、将来の仕事に迷っているあなた、
社会人の生活を聞いてみませんか。

開催日 7/25(水)・10/31(水)・11/28(水)・12/19(水)・1/30(水)

時間 ①13:30~14:35 3限目
②14:45~16:00 4限目

各回 限定 20名

会場 五福キャンパス
大学食堂1F
(学生会館裏手側) 参加費無料

1~4年生
誰でも
参加OK!

当日のご参加
お申し込み
が必要です

申し込み先 TEL 076-445-6177・445-6519 富山大学 地域連携推進機構 地域連携戦略室



地域科目授業レポート

富山大学 COC+/ 地域志向科目「富山の地域づくり」

平成 30 年 7 月 3 日(火)

ゲストスピーカー：和歌山県田辺市たなべ営業室主任 鍋屋 安則 氏
担当：金岡省吾, 尾山真, 定村誠(以上、地域連携推進機構)

地域志向科目「富山の地域づくり」が、和歌山県田辺市たなべ営業室主任の鍋屋安則さんをゲストスピーカーに迎えて行われた。

授業では、まず鍋屋さんが田辺市の地理的な特徴や産業・農業などについて紹介。「どうすれば田辺市が生き残れるか」と学生からの意見を求めた。

また、田辺市上秋津地区の地域づくり団体「秋津野塾」では、1998 年に地域づくりの最高栄誉である「天皇杯」を受賞。その



田辺市職員の鍋屋さん

後、地域住民の出資で直売所と加工場を作り、オレンジジュースの製造販売や農家レストランの経営で年間 2 億円あまり稼げるようになり、地域の雇用も生まれたという、ボランティアからビジネスにつなげた事例を紹介した。

さらに、地域活性化には人材育成が必要と提言し、富山大学地域連携

推進機構との協定締結や、「たなべ未来創造塾」の成果などを紹介。鳥獣被害に悩む地域で、若手農家と解体処理施設、シェフなどが連携し、捕獲した鳥獣で「ジビエバーガー」を開発した成功事例が挙げられた。

最後に、「富山でのグリーンツーリズム」を考える課題に、学生からは販売ルートに乗らない魚介類を使って鍋のだしを作るなどのアイディアが出された。



ゲストスピーカーの説明を聞く学生

富山大学 COC+/ 地域志向科目「富山のものづくり概論」

平成 30 年 6 月 25 日(月)

担当：柴柳 敏哉(都市デザイン学部)

地域志向科目「富山のものづくり概論」は、富山県の重要な産業の一つである材料開発・製造を題材とし、その歴史や現状を工学的な視点で理解することが目的。学生同士のディスカッションやアクティブラーニングを取り入れ、ものづくりの魅力を学んでいる。

6 月 25 日に行われた授業は、「あなたはだあれ?」というユニークなテーマを設定し、材料の特性や評価・解析方法を学んだ。担当の柴柳敏哉教授は、ニッケルアルミ合金製のジェットエンジンのタービン翼(実物)を見せ、工業製品素材の破損は、それが航空機や自動車の部品であれば、大きな事故につながると解説。「要求される性能が発揮できるよう材料の内部状態を最適化するのが材料工学者の仕事である。正しい質問と適切な問いかけ方をしないと材料は黙して何も教えてくれず、時には嘘の情報を返してくることもある」と話した。

また、この授業では、富山や出身地域の未来を切り拓くものづくりについて、学生同士が語り合い、富山を宣伝するポスターを制作するワークも実施。柴柳教授は 6 年前の着任以来、富山の観光地やグルメ・産業・歴史など、自身が興味を抱いたことを毎回の授業で紹介。学生たちに富山への関心を引き出す糸口

を提供してきた。

ポスターのコンセプトは、「外国人に富山を売り込むとしたら?」「富山の良さをひと言で売り込む」。工学部のグループは、「材料」をキーワードに、伝統産業の体験観光を提案。また、経済学部グループは、富山のお土産やグルメに着目。富山ブラックラーメンや白えびせんべい、日本酒を使ったチョコレートの P R について話し合った。芸術文化学部グループは、藤子・F・不二雄氏が高岡出身であることから、藤子氏が育った場所を巡るツアーを発案。ドラえもののポケットを富山県の形にするアイディアを、スケッチを描きながら検討し合っていた。

学部ごとにそれぞれ異なる着眼点で取り組むワークでは、学生たちは他グループのアイディアに刺激を受けながら積極的に取り組んでいた。



都市デザイン学部の柴柳教授



ポスターの内容について検討する学生

海外キャリア研修報告会を実施(タイ王国・中国)

平成 30 年 4 月 25 日 (水)
富山大学

富山大学では、4 月 25 日にタイ王国及び中国において実施した「海外キャリア研修」の報告会を開催した。

この研修は、就職・キャリア支援センターが国際交流センターの協力のもとに実施した事業で、タイにおける研修は、「COC+事業」における地域定着プログラムとして、昨年に引き続き実施。また、中国における研修は、「(株)北陸銀行との包括的連携協力に関する覚書」に基づき、キャリア支援の一環として実施したもので、今回が7回目となる。

タイにおける研修は、2 月 26 日から 3 月 3 日までの日程で、海外で事業展開する田中精密工業(株) (富山市) の協力のもと、

同社のグループ企業 2 カ所 (バンコク・ランブーン) に学生を派遣し、実務研修や日本人駐在員及び現地従業員との交流を行ったもので、学生 5 名が参加した。

また、中国における研修は、3 月 7 日から 10 日までの日程で、(株)北陸銀行 (富山市) からの支援を受け、「大連吉田拉鏈有限公司 (Y K K (株) 現地法人)」、「億達日平機床有限公司 (YNC) (コマツ N T C (株) 現地法人)」を訪問し、企業で活躍する日本人や現地の人々との交流、大連理工大学の学生及び富山大学 OB・OG との交流を行ったもので、学生 8 名が参加した。

報告会には、本学教職員・学生のほか、協力企業関係者が出席し、

研修生それぞれが「研修で得られた成果」について発表した。

研修生は皆一様に、海外で活躍する人々や学生との交流を通じ、コミュニケーション能力、異文化理解力を学び、グローバル社会で活躍することへの意識向上を図る機会を得たことへの感謝と、次へのステップに繋げたい旨の意欲を述べた。

報告会は、企業側出席者からの「このような経験が出来ることに喜びを感じ、今後も積極的にグローバル社会で自分を試し、日本を支える人材に育てほしい。」との学生への激励を込めた講評で閉会した。



開会挨拶する清水就職・キャリア支援センター長



中国・大連での研修



発表する学生



タイ王国・ランブーンでの研修

平成 29 年度 ALL 富山 COC+ 地域創生連絡協議会を開催

平成 30 年 2 月 26 日 (月)

平成 30 年 2 月 26 日 (月) に ALL 富山 COC+ 地域創生連絡協議会が開催された。

この協議会は、富山県内高等教育機関、地方公共団体、企業等の代表者で構成され、ALL 富山 COC+ 事業の意思決定の場として、事業計画の策定、事業報告、点検評価が行われた。委員からは、中間評価に甘んじることなく、企業が採用したい人材像をより明確にし、グローバルな視点を取り入れて人材育成を強化すること、目標達成のために要因を分析し必要に応じて軌道修正をすること、などの要望が出された。また、特に地元定着率の低い女子学生について、企業も大学などと協力して魅力の分析を進め、いかに地域企業を魅力的なものにするかの

検討や、企業が大学などと連携して人材確保を促進すべきとの意見が出された。



会議の様子